

学位論文要旨 (修士 (理学))

論文著者名 富田璃希

論文題名 : ある $\mathbb{Z}/3\mathbb{Z}$ 不変体の変形

本文

k を体, $k[\mathbf{x}] = k[x_1, \dots, x_n]$ を k 上の n 変数多項式環, $k(\mathbf{x}) = k(x_1, \dots, x_n)$ を k 上の n 変数有理関数体とする. L を $k(\mathbf{x})$ の部分体で, k を含むものとする. 次の問題はヒルベルトの第 14 問題と呼ばれている.

問題 1 k 代数 $L \cap k[\mathbf{x}]$ は有限生成か?

L の k 上の超越次数が 2 以下のとき, $L \cap k[\mathbf{x}]$ は有限生成であることをザリスキ [5] は示した. 一方, 問題 1 の反例は永田 [3] が 1958 年に初めて与えた. ロバーツ [4] は問題 1 の新しい反例を与えた. これらの反例 L に対し, $k(\mathbf{x})/L$ は超越拡大である. $k(\mathbf{x})/L$ が代数拡大の場合については, ロバーツの理論を一般化し, 全ての $r \geq 3$ に対し, $[k(\mathbf{x}) : L] = r$ を満たす反例 L が構成された [2].

最近, 次の結果によって, $[k(\mathbf{x}) : L] = 2$ を満たす反例も与えられた [1]. 以下, k の標数は 0 とする. z を変数とし,

$$k[\mathbf{x}, z] = k[x_1, \dots, x_n, z], \quad k(\mathbf{x}, z) = k(x_1, \dots, x_n, z)$$

をそれぞれ $n + 1$ 変数の多項式環, 有理関数体とする.

$$\epsilon : k[\mathbf{x}] \ni p(x_1, \dots, x_n) \mapsto p(x_1, 0, \dots, 0) \in k[x_1]$$

と定義する. $\text{Aut}_k k(\mathbf{x}, z)$ を体 $k(\mathbf{x}, z)$ の k 上の自己同型群とする.

M を $k(\mathbf{x})$ の部分体で, k を含むものとし, 以下の条件 (A) と (B) を考える.

(A) $M \cap k[\mathbf{x}] = M \cap k[\mathbf{x}][x_1^{-1}]$ である.

(B) $\epsilon(M \cap k[\mathbf{x}]) = k[p]$ を満たす $p \in k[x_1]$ は存在しない.

このとき, 次の定理が成り立つ.

定理 2 ([1, §2.2.1]) M が (A) と (B) を満たすとき, k 代数 $\theta(M(z)) \cap k[\mathbf{x}, z]$ が有限生成でないような $\theta \in \text{Aut}_k k(\mathbf{x}, z)$ が存在する.

なお, [1, §2.2.1] では定理 2 の θ の構成の手順も与えられている.

本修士論文では, 有限行列群の不変体として (A), (B) を満たす M を作ることを試み,

以下の結果を得た. $n = 2$ とし, $x := x_1, y := x_2$ とおく. 位数 3 の行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix} \in GL(2, k)$$

に対し, $k[x, y]$ の自己同型

$$\phi : k[x, y] \ni p(x, y) \mapsto p\left(A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}\right) = p(-y, x - y) \in k[x, y]$$

の $k(x, y)$ への拡張を $\tilde{\phi}$ とおく. このとき, $\tilde{G} := \langle \tilde{\phi} \rangle$ は $\text{Aut}_k k(x, y)$ の位数 3 の部分群である. \tilde{G} の不変体 $k(x, y)^{\tilde{G}}$ を考える.

次が本修士論文の主結果である.

定理 3 $M = k(x, y)^{\tilde{G}}$ は条件 (A) と (B) を満たす.

本修士論文では, k 代数 $\theta(k(x, y)^{\tilde{G}}(z)) \cap k[x, y, z]$ が有限生成でないような $\theta \in \text{Aut}_k k(x, y, z)$ も構成した.

参考文献

- [1] A. van den Essen, S. Kuroda and A. J. Crachiola, *Polynomial automorphisms and the Jacobian conjecture—new results from the beginning of the 21st century*, Frontiers in Mathematics, Birkhäuser/Springer, Cham, 2021.
- [2] S. Kuroda, Hilbert’s fourteenth problem and algebraic extensions, *J. Algebra* **309** (2007), no. 1, 282–291.
- [3] M. Nagata, On the fourteenth problem of Hilbert, in *Proceedings of the International Congress of Mathematicians, 1958*, Cambridge Univ. Press, London, New York, 1960, 459–462.
- [4] P. Roberts, An infinitely generated symbolic blow-up in a power series ring and a new counterexample to Hilbert’s fourteenth problem, *J. Algebra* **132** (1990), no. 2, 461–473.
- [5] O. Zariski, Interprétations algébriques-géométriques du quatorzième problème de Hilbert, *Bull. Sci. Math. (2)* **78** (1954), 155–168.